

減災ニュース No.28

2014年10月12日 減災プロジェクトチーム

震災救援所ってなんだろう(その3)

区内には震災救援所66か所、災害備蓄倉庫29か所、医療救護所9か所(下記)、給水拠点は8か所あります。当町会近隣では高南中と杉十小が震災救援所で、蚕糸の森公園は広域避難場所、更に災害備蓄倉庫、給水拠点もある、という大変恵まれた環境にあります。「じゃあ安心だね」と思われる方もおられるかと思いますが、そうでしょうか。震災救援所での生活は以下のような感じになります。

震災救援所って誰が運営するの? 区役所の人? 震災救援所の所長は区職員が任命され、運営にあたります。しかし、区は役所内に災害対策本部、地域区民センター(区内7か所、近隣ではセシオン)に救援隊本隊を立上げ、66ヶ所の救援所サポートに大忙し。そこで、救援所の運営には地域住民(町会や民生委員など)に手伝ってもらおう仕組みとなっています。ただ、区役所も町会役員も大震災発生時には等しく被災しますので、予定スタッフが参集できるかは疑問です(絶対無理)。このため**救援所の運営には避難者全員が参加協力**することが重要となります。各自ができる範囲で互いに譲り合い助け合って、少しでも快適な救援所としてゆければと考えます。

震災救援所では 着るものは なし。**布団** なし毛布のみ。**食料備蓄は** 災害発生後1日分を備蓄。2日目からは都から供給。**何があるの** 水、食料、紙おむつや生理用品、粉ミルクなど最低必需品。**収容人数** 66ヶ所で86千人。**お風呂・シャワー** なし。体は拭くだけで我慢。**洗濯** できない。**フアイバー** なし。**嗜好品(酒、タバコ)** なし。**日常薬** なし(医療救護所で対応)。**テレビ娯楽** なし。**ネット接続** 体育館に無線LAN設備有。**トイレ** マンホールトイレ、ペール缶トイレなど。

どうやら「耐乏生活」を覚悟する必要がありますね。布団は寝袋と銀マットを個人で準備しておけばなんとかしのげるかな。無線LANは情報収集に便利ですね。区民55万人に収容数は足りる?都からの食糧供給は本当に可能?などの課題は区でも認識し、順次改善に取り組んでいるとのこと。いつかはくるであろう大震災、皆の協力でなんとか乗り切りたいものです。「備えあれば憂いなし」。

自宅は壊れなかったけど 救援所に在宅避難者の届出をすれば炊出しを受けられます。水は蚕糸の森給水拠点でもらえますが、**ボトルは必ず各自で持参**(区では備蓄なし)してくださいとのこと。20Lポリタンクと簡易キャリー(水は大変重い)などあれば安心ですね。ポリタンクは、発災時にはお店が開いていても売切れ必至と思われるので、今から準備しておくことを強くお勧めします。

医療救護所の変更について(お知らせ)

従来、発災時には震災救援所に併設して15ヶ所(近隣では杉十小)に医療救護所が設置される体制となっていました。区では26年度より、**発災後3日間は救急医療救護所を災害拠点病院敷地内に開設**(区内9か所)するようになりました。当町会近隣では**救世軍フーズ記念病院**(和田1-40-5)に設置されます。また、4日目以降は必要に応じ、従来の医療救護所を開設すること。来年度には佼成病院他1か所が増え、11か所になるそうです。

減災ニュースに関するご要望、お問い合わせ 松尾 5932-0083

町会HP <http://members3.jcom.home.ne.jp/wagamachi/>

